

東浪見保育所より一宮保育所の移設を先にすべき。

千葉県が実施する津波対策事業により、一宮保育所が津波被害を受ける可能性が大幅に低くなったことで津波対策としての保育所移設よりも老朽化が著しい東浪見保育所を移設することについて優先順位が高位であると考えます。

東浪見保育所の移設先は、どこか？津波などの災害に考慮し高台の安全な場所に移設を

庁内に検討委員会を作り、高台の用地を検討しましたが、進入路、排水対策、がけ崩れ対策が必要になるなど適当な用地がありませんでした。東浪見保育所の移設先は、東浪見地区の中央に位置する東浪見小学校に隣接している土地を候補地に考えています。

津波被害については、千葉県の津波対策事業により、東日本大震災の時に発生した津波と同規模であれば、東浪見小学校周辺は浸水しないと報告されています。

基本計画に「千葉県が河川津波対策事業を行うことにより危険性がなくなることが確認されている。」とあるが、具体的な内容は

昨年9月に千葉県から一宮町の津波防災対策が公開されました。この中で国の中央防災会議が想定した二つのレベルの津波に基づき、レベル1の100年に一度の津波に対しては、千葉県が津波対策を講じることとされており、レベル2の1000年に一度という発生頻度が低い甚大な被害をもたらす津波に対しては、防災対策で巨額の費用を投資負担することは不可能であり、住民の避難対策を基本とした整備が望ましいとの方針が示されています。

千葉県は、レベル1に対応した一宮川の両護岸のかさ上げを河口から中の橋まで実施する予定です。また、海岸沿いに高さ6mから6.5mの土塁の整備を現在行っています。これらの対策により、10mの津波浸水被害区域が縮小され町内の保育所への影響が低減する見込みです。

町立保育所の移設より愛光保育園の建て替えが先になるのはなぜか

愛光保育園においても慢性的な定員超過の状況であり保育室が不足しています。また、津波が発生した場合、早急に避難できる適当な高台がありません。このような状況から定員超過の解消と避難場所としての機能を備えた施設の整備が求められていました。

国において待機児童解消のため緊急的な整備を行う私立保育所に対し、今年度限りの有利な補助金交付制度が設けられ、この補助事業を活用することにより、町も事業者も早急にかつ少ない負担で整備することが可能であることから町立保育所よりも先に建て替えを行うことになりました。

子ども・子育て会議の報告書では、原保育所は、一宮保育所と統合して高台に移設することになっていたが、なぜ方針が変わったのか

原保育所の建物は、比較的新しく駐車場も整備され、広い園庭を備えた良好な施設です。当初は、津波浸水区域であったため、一宮保育所と統合し高台に移設することで検討を進めていましたが、千葉県による津波対策事業の実施により原保育所が津波浸水区域からはずれる見込みになったことから、地域の子どもは地域で育てることを基本に原地区に保育所を残すことにしました。

また、町の児童数は、管内でも突出して増加していますが、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計に基づいた平成 35 年の一宮町の児童数は、平成 25 年度より 50 人減少することが予想されます。

町としましても、この推計のように児童数が減少することがないように努めていきますが、当面は、維持管理を行い、平成 35 年度に再度児童数を考慮した改修・施設の統合を検討する考えです。

慢性的な定員超過については、愛光保育園を含む他の保育所が定員増で整備されることにより、解消されるものと考えています。